

第五回技術研修・見学会の報告

～羽田クロノゲート見学会～

2015年9月4日（金）第五回目となる技術委員会主催の見学会を実施しました。

「羽田クロノゲート」はヤマト運輸が運営する、国内外の流通拠点として有数の規模を誇る巨大物流センターです。物流の基本でもあるより安全に、より迅速に、そしてより効率的な運輸を実現し、私たちメーカーの製品をお客様の元にお届けする要所でもあり、円滑な経済活動の要として24時間稼働しています。

見学日 2015年9月4日

参加人員 24名

開催場所：東京都大田区羽田旭町1-1-1

羽田クロノゲート見学コース

クロノゲート全景



社会貢献エリアにはカフェもありました



受付を過ぎると、2019年に創業100年を迎えるヤマト運輸の100THANKS コーナーで説明を受け、見学者ホールに案内されました。ここでは、ヤマト運輸創業からのイメージビデオを観賞、数台から始まった日本最初の宅配サービスのはじまりのはじまりにうなずく。羽田クロノゲートには104台ものトラックが集荷した荷物を同時に受け入れる体制がありました。この羽田クロノゲートのクロはクロネコのクロではなく、時を司るギリシャ神話の神様<クロノス>と国内と海外をつなぐ<ゲートウェイ (Gateway)>の2つの言葉を組み合わせた名前で、「新しい時間と空間を提供する物流の”玄関”であるとともに、物流の新時代の幕開け」となることを目指して名づけられたそうです。

いよいよ物流の心臓部の見学者コリドーに入るとすぐ右手には7階からつづくスパイラルコンベアがあり、その先には高度に制御されたベルトコンベアのセルと言われるユニット上に荷物を載せて高速で移動中。人の気配はなく、すべて自動で振り分けされていました。荷物のどの面に貼られたラベルのバーコードでも読み取り可能な立体的な4面スキャナーや

リセンタリング機能を持ったセル上にクロスベルトソータで自動的に振り分けられていました。このセルは1337枚あり、時速9.7Kmで稼働することで、なんと一時間あたり4万個を超える荷物を処理できる最先端配送システムだそうです。

次に、羽田クロノゲートの頭脳ともいえる、集中管理室を透明に変化するガラス越しに見学。管理者は一人で全体の状況を確認し、常に高い効率化と万全のセキュリティ、そして環境への優しさを追求する取組がなされていました。

最後の展示ホールでは床面に設置されたスクリーンに3つの新たな取り組みについての紹介がされました。羽田クロノゲートでは、荷物を運ぶだけでなく、メーカーの代わりに製品の修理・メンテナンスを行う部隊や医療機器の洗浄、海外に向けた配送拠点としての役割も担っていました。今後、関西、中部、厚木のゲートウェイが整えば、3大都市間の当日配送が実現するという画期的な取り組みに、さらなる期待をふくらませてしまいました。

見学会の終わりには、参加者全員がFRAPS(Free Rack Auto Pick System)といわれるピッキングを体験し、ピックアップしたギフトをゲット。

超巨大な施設内で高速に自動運搬されている荷物のひとつひとつが高速道路上の自動車にも重なって見え、日本を根底から支えている“自動車産業”と“流通システム”を想起し、改めてそのありがたさを感じました。

最後に入り口前で記念撮影して見学会を無事終了しました。今回ご参加いただきました会員の皆さま、そして大変丁寧にご説明をいただいたガイドのお二人にも重ねて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



2015年9月4日 羽田クロノゲート見学コース入口前にて